

洞爺湖ビジターセンター 2014年度 自然ふれあい通信

洞爺湖ビジターセンター・火山科学館では毎月1回、洞爺湖周辺の自然と親しむ「自然ふれあい行事」を開催しています。その様子を少しご紹介します。

9月20日(土) 秋の中島散策



洞爺湖周辺では一日の気温差が大きくなり、秋の訪れを感じられます。秋特有の変わりやすい天気の中、洞爺湖ビジターセンター・火山科学館9月の自然ふれあい行事、秋の中島散策を行いました。春にも行った中島散策ですが、今回の行事では洞爺湖温泉街から遊覧船に乗り、中島大平原までの往復コース(約3km)と中島遊歩道1周コース(約7.6km)に途中から分かれて歩きました。中島は洞爺湖の真ん中に浮かび、約5万年前の火山活動によって誕生した群島です。有珠山噴火の被害を受けないため、巨大な木や豊かな自然が残されていましたが、約50年前にとある動物が持ち込まれたことにより、中島の生態系に様々な影響が見られます。



今回見たエゾシカは夏毛でした。木漏れ日(こもれび)模様で、敵に気づかりにくくなっています。



大平原までの遊歩道沿いに生えていた大きなカツラの木。子供たちが手もつないで太さを測ると、6人分もありました。

今回の行事では洞爺湖ビジターセンターに集合し、航空写真を使って今行事の行程や中島のでき方を説明しました。その後、遊覧船に乗り中島に渡りました。中島遊歩道に入って最初の森林は人工林でトドマツが植えられています。この日は入ってすぐ、柵の近くにいるエゾシカに出会いました。約50年前、人間が観光のひとつとしてエゾシカを中島に放しました。天敵のいない中島ではエゾシカがどんどん増え、多い時で400頭以上になりました。現在の中島では増えすぎたエゾシカが中島の自然にもたらした影響がところどころに見られます。

エゾシカは草食動物で、森の中に生えている草を食べますが、好き嫌いがあるため、エゾシカが好まない草だけ残ってしまいます。また、草が少ないと土が流れやすくなり、その結果木が倒れやすくなるなどの影響があります。

洞爺湖中島においてエゾシカの高密度化が引き起こした様々な問題は、もともとは人間がそこにエゾシカを持ち込んだことから始まりました。みなさまも人間と生きものの共生を考えるきっかけとして、中島を訪れてみてはいかがでしょうか？



湖畔沿いの道で倒れていた木。こんなに大きな木が倒れていると迫力満点です。

